

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	御殿場線			事業者名	富士急行株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点			
	御殿場駅	裾野駅 入口	三島駅			
系統キロ程 (km)	21.8		輸送量 (人/日)	24.8		
平均乗車密度 (人/便)	3.6		運行回数 (回/日)	6.9		
公共・拠点施設	学校	日本大学、日大三島高校、三島北小・中学校、徳倉小学校、裾野西小学校、神山小学校、富士岡小・中学校				
	病院	大橋医院、神山復聖病院				
	商業施設	ヘルシティ、時の栖				
	その他	裾野市役所、裾野市営プール、裾野市民文化センター、県御殿場庁舎、三菱アルミニウム、矢崎部品、トヨタ自動車東日本、岡村製作所				
収支率 (%) (収益/費用)	57.7		乗車人員 (人)	74,207		
乗換可能な アクセス拠点等	拠点3 バス停9	名称	拠点：JR三島駅、JR岩波駅、JR御殿場駅 バス停：乗入入口、三菱前、佐野、復聖病院前、かまど中、萩芙蓉台、裾野駅入口、裾野文化センター、森の腰			
広域利用状況 (%) (他市町へ行く利用者の割合)	35.4					
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。(大型超低床：3両導入、中型超低床：1両)</p> <p>イ. 地域交通ネットワーク強化のため、路線再編を実施した。</p> <p>① 域内系統との乗継システム構築/機能の整理を行ってため、また箱根エリアとの相互連携と沿線活性化を図るため、幹線バス・河口湖線の輸送力を強化した。 (1時間間隔：18往復→30分ヘッド運行化：26往復運行) H27.4実施。</p> <p>② 小山町地域公共交通総合連携計画に基づき、町営バスとの連携によるエリア再編を実施。併せて、幹線と町営バス相互の乗継割引施策、シルバー定期券の出張販売システムを構築した。 H26.10～実施。(町がシルバー定期の購入助成制度をつくり、連携して販促・高齢者のバス利用促進を図っている)</p> <p>ウ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開</p> <p>① 関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。 ② 利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。 (御殿場市内小学校×5件、小山町内小学校×3件) ※H28.3で全9件実施予定</p> <p>エ. 利用者に配慮した取り組み</p> <p>① WEBで「見える化」を図った。 ・乗換案内主要サイト「NAVITIME」全路線情報発信開始 H27.3実施 ・自社HP「富士急行バス」を全面リニューアルした。H27.12実施</p> <p>② ヘビュージャー(定期利用している団体など)に専用ポケット時刻表を複製・配布し、(須走地区1,800部、富士学校1,000部)、併せてICカード使用方法説明会を実施した。</p> <p>③ 富士登山バスの利用者へ「富士登山下山間道止マッパ(日・英)」を複製・配布した。</p> <p>④ 接客コンテスト開催による乗務員・窓口係員の「列」強化を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動</p> <p>① 地元FM放送へのスポンサー契約を締結し、シルバー定期券PRのCM放送を開始(H27.5継続実施中。)</p> <p>② 「時の栖」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。H27.11実施。</p>					
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い部品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ(H25年度内で全車搭載済み)を活用し、事故防止に役立てること事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p>					
沿線市町のサポート	<p>【三島市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要交通結節点である新幹線三島駅を発着する幹線であることを生かし、新幹線通勤・通学者の二次交通としての利便性向上を図る方策を事業者と検討している。 ・世界遺産登録された富士山観光の二次交通としての利便性向上を図り、需要を掘り起こすための方策として、駅前ロータリーの整備等を進めている。 <p>【御殿場市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度策定予定の地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として改めて位置付けを行い、公共交通に対する利用者意識の啓発と利用促進について目標と施策の設定を行う。 ・支線系統等の地域内交通ネットワークの新設・再編等を検討する場合において、幹線系統への乗り継ぎ・連携を考慮して検討を行う。 ・時刻表配布等の交通事業者の取り組みへの協力や、市広報紙やホームページ等の広報媒体の活用による公共交通の利用促進、啓発を実施する。 <p>【裾野市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス時刻表を市内公共施設へ配布。 ・裾野市HPに路線バス時刻表を掲載。 ・富士急バスの車両に、世界遺産富士山のラッピングを施し、その他収入として側面から支援。 ・裾野駅南北循環線エリア外の高齢者へバス・タクシー利用助成券を交付。 ・幼稚園・保育園を対象としたバスの乗り方教室を実施。 ・乗降調査結果から、利用者のニーズ把握に努める。 					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p>					

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	駿河小山線			事業者名	富士急行株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	御殿場駅	一色	駿河小山駅		
系統キロ程 (km)	11.8	輸送量 (人/日)	49.3		
平均乗車密度 (人/便)	3.5	運行回数 (回/日)	14.1		
公共・拠点施設状況	学校	御殿場小・中学校、御殿場高校、高根小・中学校、明倫小学校			
	病院	救急医療センター			
	商業施設	ハックドラック、マミー、セルバ、道の駅ふじおやま、コメリ、丸善食品			
	その他	郵便局（5件）、御殿場市役所、小山町役場、小山消防署、コミュニティセンター、御殿場保健センター、小山町ふじみセンター			
収支率 (%) (収益/費用)	63.2	乗車人員 (人)	103,586		
乗換可能なアクセス拠点等	拠点2 バス停7	名称	拠点：JR御殿場駅、JR駿河小山駅 バス停：湯沢、御殿場小学校前、上町、仲町、小山町役場、上合、佐野川		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	35.4				
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。（大型超低床：3両導入、中型超低床：1両）</p> <p>イ. 地域交通ネットワーク強化のため、路線再編を実施した。</p> <p>①域内系統との乗継システム構築/機能の整理を行ったため、また箱根エリアとの相互連携と沿線活性化を図るため、幹線バス・河口湖線の輸送力を強化した。（1時間間隔：18往復→30分ヘッド運行化：26往復運行）H27.4実施。</p> <p>②小山町地域公共交通総合連携計画に基づき、町営バスとの連携によるエリア再編を実施。併せて、幹線と町営バス相互の乗継割引施策、シルバー定期券の出張販売システムを構築した。H26.10～実施。（町がシルバー定期の購入助成制度をつくり、連携して販売・高齢者のバス利用促進を図っている）</p> <p>ウ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開</p> <p>①関係自治体と連携してバス時刻表・乗り方案内のツールの小山町内全戸配布を実施。</p> <p>②利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。（御殿場市内小学校×5件、小山町内小学校×3件） ※H28.3で全9件実施予定</p> <p>エ. 利用者に配慮した取り組み</p> <p>①WE Bで「見える化」を図った。</p> <p>・乗換案内主要サイト「NAVITIME」全路線情報発信開始 H27.3実施</p> <p>・自社HP「富士急行バス」を全面リニューアルした。H27.12実施</p> <p>②ペーユーザー（定期利用している団体など）に専用ポケット時刻表を複製・配布し、（須走地区1,800部、富士学校1,000部）、併せてICカード使用方法説明会を実施した。</p> <p>③富士登山バスの利用者に「富士登山下山間道防止マップ（日・英）」を複製・配布した。</p> <p>④接客コンテスト開催による乗務員・窓口係員の社内コンテスト強化を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動</p> <p>①地元FM放送へのスポンサー契約を締結し、シルバー定期券PRのCM放送を開始（H27.5継続実施中。）</p> <p>②「時の栞」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。H27.11実施。</p>				
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ（H25年度内で全車搭載済み）を活用し、事故防止に役立てること</p>				
沿線市町のサポート	<p>【御殿場市】</p> <p>・平成27年度策定予定の地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として改めて位置付けを行い、公共交通に対する利用者意識の啓発と利用促進について目標と施策の設定を行う。</p> <p>・支線系統等の地域内交通ネットワークの新設・再編等を検討する場合において、幹線系統への乗り継ぎ・連携を考慮して検討を行う。</p> <p>・時刻表配布等の交通事業者の取り組みへの協力や、市広報紙やホームページ等の広報媒体の活用による公共交通の利用促進、啓発を実施する。</p> <p>【小山町】</p> <p>・平成26年度に策定した金太郎公共交通計画において広域的幹線として位置づけている。</p> <p>・支線としてコミュニティバスの運行、当系統との乗継割引を実施</p> <p>・支線として実施実証実験運行バスの運行を開始。乗継のためのダイヤ調整、運行経路重複区間のダイヤ調整等を実施</p> <p>・高齢者の利用を促すため、路線バス高齢者定期券の購入費（3割）助成を実施</p> <p>・高校生等通学利用者の確保に取り組む。</p> <p>・今後も公共交通会議を中心に、町民・交通事業者・行政が一体となって協働による利用促進等を図り、地域交通の活性化に取り組む。</p>				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

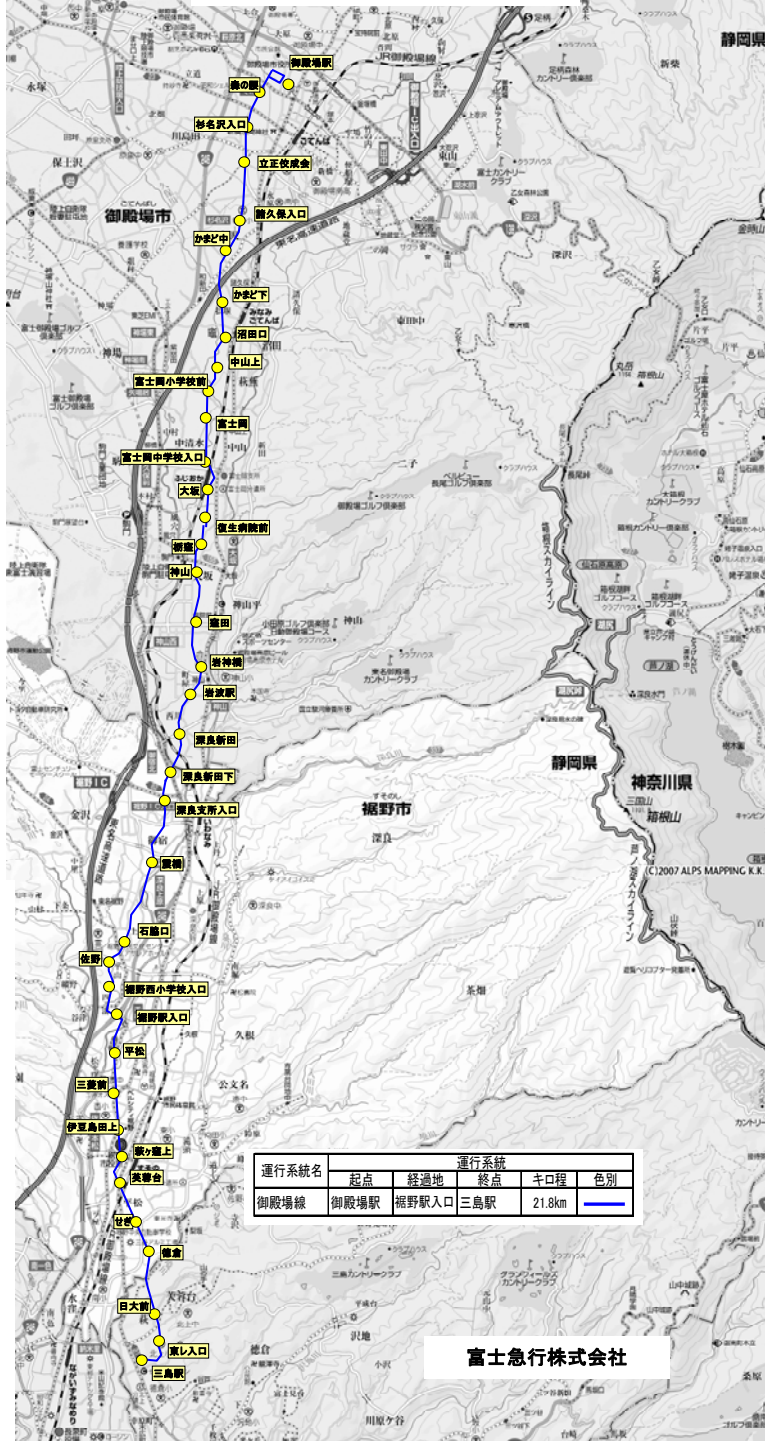
系統名	十里木線			事業者名	富士急行株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	御殿場駅	須山	十里木		
系統キロ程 (km)	19.1	輸送量 (人/日)	25.2		
平均乗車密度 (人/便)	4.2	運行回数 (回/日)	6.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	原里中学・小学校、須山小学校			
	病院	フジ虎ノ門病院、東部病院、渡辺整形外科、			
	商業施設	クラブ、ピオパーク、JAなんすん			
	その他	原里支所、板妻駐屯地、須山支所、裾野富士山資料館、富士裾野工業団地、東海ゴム、須山浅間神社、富士サファリパーク、十里木別荘地、愛鷹山登山口			
収支率 (%) (収益/費用)	66.9		乗車人員 (人)	51,605	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点1 バス停5	名称	拠点：JR御殿場駅 バス停：森の腰、大樫、板妻、須山、富士サファリパーク		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	49.0				
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。(大型超低床：3両導入、中型超低床：1両)</p> <p>イ. 地域交通ネットワーク強化のため、路線再編を実施した。</p> <p>①域内系統との乗継システム構築/機能の整理を行っていきため、また箱根エリアとの相互連携と沿線活性化を図るため、幹線バス・河口湖線の輸送力を強化した。 (1時間間隔：18往復→30分ヘッド運行化：26往復運行) H27.4実施。</p> <p>②小山町地域公共交通総合連携計画に基づき、町営バスとの連携によるエリア再編を実施。 併せて、幹線と町営バス相互の乗継割引施策、シルバー定期券の出張販売システムを構築した。 H26.10～実施。(町がシルバー定期の購入助成制度をつくり、連携して販促・高齢者のバス利用促進を図っている)</p> <p>ウ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開</p> <p>①関係自治体と連携してバス時刻表・乗り案内のツールの小山町内全戸配布を実施。 ②利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。 (御殿場市内小学校×5件、小山町内小学校×3件) ※H28.3で全9件実施予定</p> <p>エ. 利用者へ配慮した取り組み</p> <p>①WEBで「見える化」を図った。 ・乗換案内主要サイト「NAVITIME」全路線情報発信開始 H27.3実施 ・自社HP「富士急行バス」を全面リニューアルした。H27.12実施</p> <p>②ヘビユーザー(定期利用している団体など)に専用ポケット時刻表を複製・配布し、(須走地区1,800部、富士学校1,000部)、併せてICカード使用方法説明会を実施した。</p> <p>③富士登山バスの利用者に「富士登山下山間道案内マップ(日・英)」を複製・配布した。</p> <p>④接客コンテスト開催による乗務員・窓口係員の「礼」強化を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動</p> <p>①地元FM放送へのスポンサー契約を締結し、シルバー定期券PRのCM放送を開始 (H27.5継続実施中。)</p> <p>②「時の栖」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。H27.11実施。</p>				
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ(H25年度内で全車搭載済み)を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p>				
沿線市町のサポート	<p>【御殿場市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度策定予定の地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として改めて位置付けを行い、公共交通に対する利用者意識の啓発と利用促進について目標と施策の設定を行う。 ・支線系統等の地域内交通ネットワークの新設・再編等を検討する場合において、幹線系統への乗り継ぎ・連携を考慮して検討を行う。 ・時刻表配布等の交通事業者の取り組みへの協力や、市広報紙やホームページ等の広報媒体の活用による公共交通の利用促進、啓発を実施する。 <p>【裾野市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス時刻表を市内公共施設へ配布。 ・裾野市HPに路線バス時刻表を掲載。 ・裾野駅南北循環線エリア外の高齢者へバス・タクシー利用助成券を交付。 ・幼稚園・保育園児を対象としたバスの乗り方教室を実施。 ・乗降調査結果から、利用者のニーズ把握に努める。 ・近年増加傾向の愛鷹山麓へのハイカー向けの運行について利用者のニーズ、バス停設置場所等、観光面からのバス運行について検討を行った。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	河口湖線			事業者名	富士急行株式会社	
路線の状況	起点	経由地	終点			
	河口湖	旭日丘	御殿場駅			
系統キロ程 (km)	35.9		輸送量 (人/日)	51.7		
平均乗車密度 (人/便)	7.5		運行回数 (回/日)	6.2		
公共・拠点施設	学校	御殿場西高校、須走小・中学校、山中湖小・中学校、富士吉田市立看護専門学校、日大セミナーハウス				
	病院	富士吉田市立病院、渡辺整形外科				
	商業施設	JA御殿場、キリンデスティラリー、ケーズデンキ、JA須走、道の駅すばしり、ファナック、道の駅富士吉田、都留信用組合				
	その他	御殿場市立図書館、御殿場市民会館、須走支所、自衛隊富士学校、山中湖村役場、山中湖郵便局、自衛隊北富士駐屯地、上吉田コミュニティセンター、須走浅間神社、天恵、森の駅旭日丘、文学の森公園、忍野八海、さかな公園、忍野温泉、北口本宮富士浅間神社、富士急ハイランド				
収支率 (%) (収益/費用)	74.6		乗車人員 (人)	78,347		
乗換可能なアクセス拠点等	拠点3 バス停11	名称	拠点：JR御殿場駅、富士急行富士山駅、富士急行河口湖駅 バス停：湯沢、のみ沢、図書館前、須走浅間神社、山中湖旭日丘、山中湖村役場前、富士山山中湖、忍野入口、セマ卓、横町、警察署前			
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	81.0					
増収策	<p>ア. 補助制度を活用し、低床バスを導入した。(大型超低床：3両導入、中型超低床：1両)</p> <p>イ. 地域交通ネットワーク強化のため、路線再編を実施した。</p> <p>① 域内系統との乗継システム構築/機能の整理を行っていきため、また箱根エリアとの相互連携と沿線活性化を図るため、幹線バス・河口湖線の輸送力を強化した。 (1時間間隔：18往復→30分ヘッド運行化：26往復運行) H27.4実施。</p> <p>② 小山町地域公共交通総合連携計画に基づき、町営バスとの連携によるエリア再編を実施。併せて、幹線と町営バス相互の乗継割引施策、シルバー定期券の出張販売システムを構築した。 H26.10～実施。(町がシルバー定期の購入助成制度をつくり、連携して販促・高齢者のバス利用促進を図っている)</p> <p>ウ. 地域との連携や自社スケールを活用してのセールス展開</p> <p>① 関係自治体と連携してバス時刻表・乗り案内のツールの小山町内全戸配布を実施。</p> <p>② 利用のきっかけづくりのため、小学生を中心にバス乗り方教室を実施。 (御殿場市内小学校×5件、小山町内小学校×3件) ※H28.3で全9件実施予定</p> <p>エ. 利用者に配慮した取り組み</p> <p>① W E Bで「見える化」を図った。 ・乗換案内主要サイト「NAVITIME」全路線情報発信開始 H27.3実施 ・自社HP「富士急行バス」を全面リニューアルした。H27.12実施</p> <p>② ヘビュージャー(定期利用している団体など)に専用ポケット時刻表を製作・配布し、(須走地区1,800部、富士学校1,000部)、併せてICカード使用方法説明会を実施した。</p> <p>③ 富士登山バスの利用者へ「富士登山下山間違え防止マップ(日・英)」を製作・配布した。</p> <p>④ 接客コンテスト開催による乗務員・窓口係員のモチベーション強化を図った。</p> <p>オ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・PR活動</p> <p>① 地元FM放送へのスポンサー契約を締結し、シルバー定期券PRのCM放送を開始(H27.5継続実施中。)</p> <p>② 「時の橋」における冬季イルミネーションに作品出展。乗合バスをアピールした。H27.11実施。</p>					
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図る。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ(H25年度内で全車搭載済み)を活用し、事故防止に役立てること事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p>					
沿線市町のサポート	<p>【御殿場市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度策定予定の地域公共交通網形成計画において、広域的幹線として改めて位置付けを行い、公共交通に対する利用者意識の啓発と利用促進について目標と施策の設定を行う。 支線系統等の地域内交通ネットワークの新設・再編等を検討する場合において、幹線系統への乗り継ぎ・連携を考慮して検討を行う。 時刻表配布等の交通事業者の取り組みへの協力や、市広報紙やホームページ等の広報媒体の活用による公共交通の利用促進、啓発を実施する。 <p>【小山町】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度に策定した金太郎公共交通計画において広域的幹線として位置づけている。 当路線の通過する須走地区において、ポケット時刻表、ダイヤ改正時の時刻表の全戸配布を事業者と協力して実施 高齢者の利用を促すため、路線バス高齢者定期券の購入費(3割)助成を実施 生活交通確保路線として、沿線商業施設との連携に取り組む。 高校生通学利用者の確保に取り組む。 今後も公共交通会議を中心に、町民・交通事業者・行政が一体となって協働による利用促進等を図り、地域交通の活性化に取り組む。 					
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>					

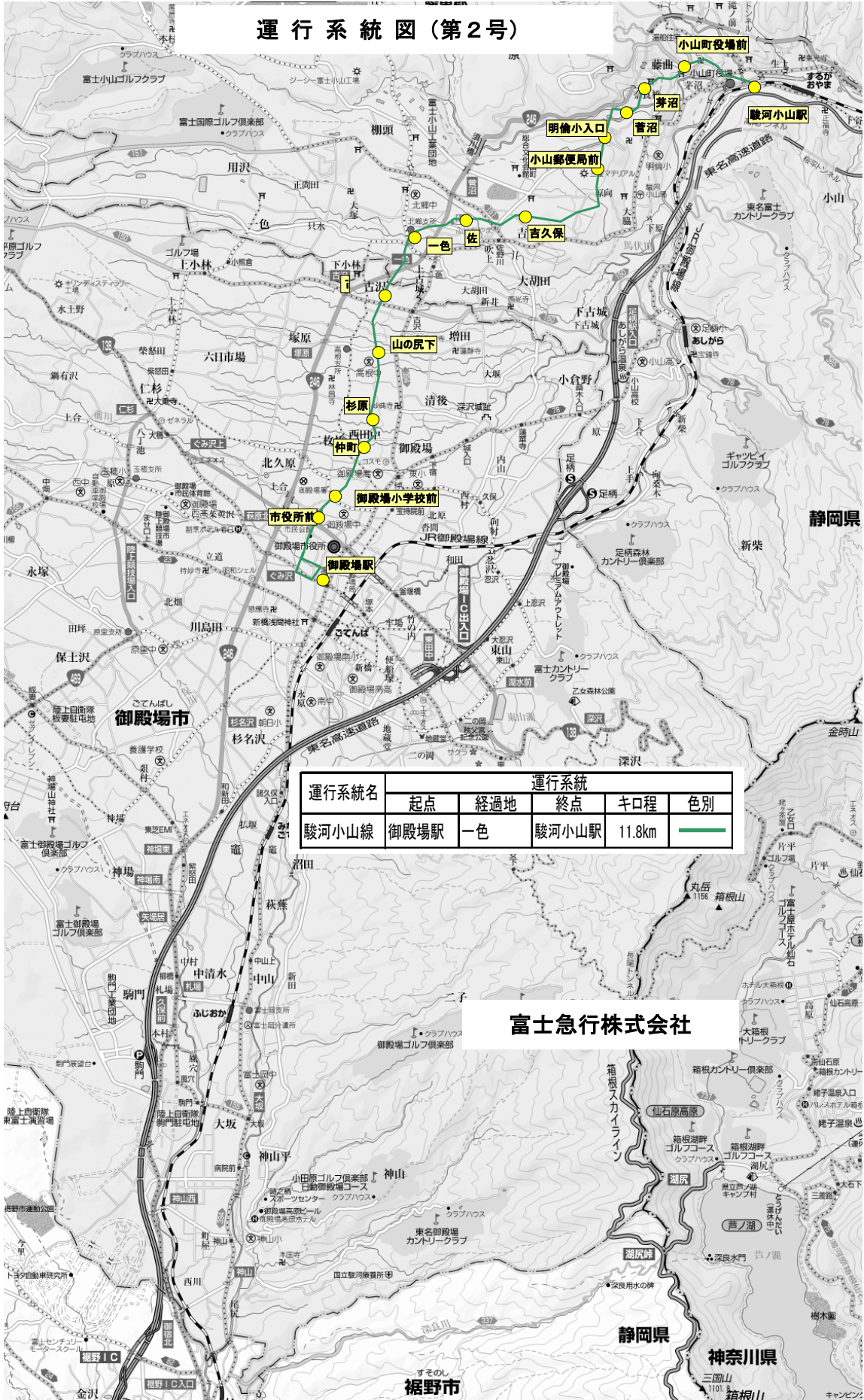


運行系統図(第1号)



富士急行株式会社

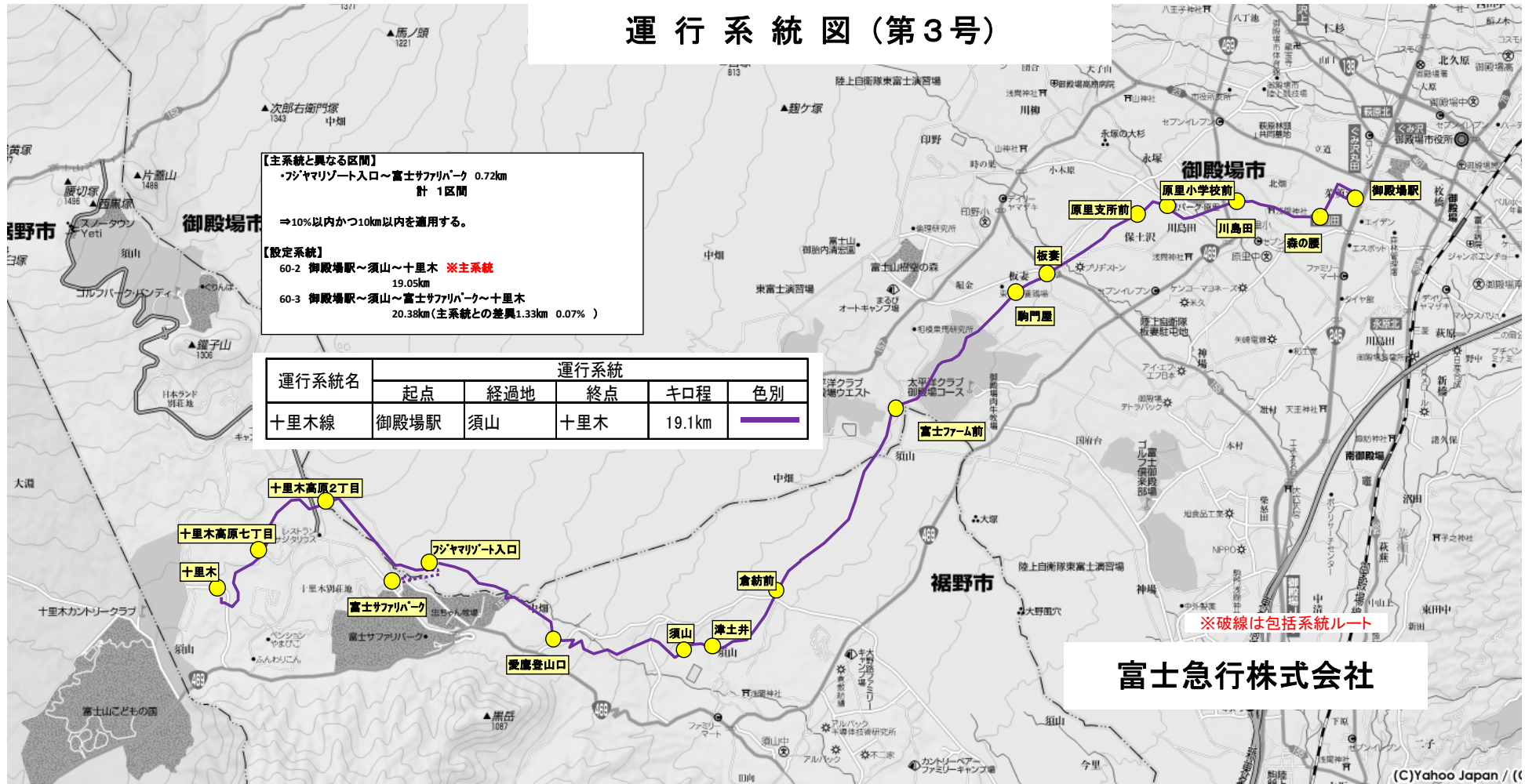
運行系統図 (第2号)



運行系統名	運行系統				
	起点	経過地	終点	キロ程	色別
駿河小山線	御殿場駅	一色	駿河小山駅	11.8km	—

富士急行株式会社

運行系統図 (第3号)



【主系統と異なる区間】
 ・フジヤマリゾート入口～富士サファリパーク 0.72km
 計 1区間
 ⇒10%以内かつ10km以内を適用する。

【設定系統】
 60-2 御殿場駅～須山～十里木 ※主系統
 19.05km
 60-3 御殿場駅～須山～富士サファリパーク～十里木
 20.38km (主系統との差異1.33km 0.07%)

運行系統名	運行系統				色別
	起点	経過地	終点	キロ程	
十里木線	御殿場駅	須山	十里木	19.1km	—

※破線は包括系統ルート

富士急行株式会社

運行路線図(第4号)

運行系統名	運行系統				色別
	起点	経過地	終点	キロ程	
河口湖線	河口湖駅	旭日丘	御殿場駅	35.9km	■

富士急行株式会社

【運行割合算定】※主系統
 ①河口湖駅～籠坂峠 18.51km
 ②籠坂峠～県境 0.77km
 ↓
 ①山梨県運行エリア =19.28km(53.4%)
 ②静岡県運行エリア =16.63km(46.3%)
 合計 35.91km

【主系統と異なる区間】
 ①忍野入口～梨ヶ原 5.60km
 計1区間
 ⇒10%以内かつ10km以内を適用する。
 【設定系統】
 ①河口湖駅～旭日丘～御殿場駅 ※主系統 35.91km
 ②河口湖駅～膳棚～旭日丘～御殿場駅※当該期間運行なし 37.91km(主系統との差異2.00km 5.3%)

H27.4.6～「御殿場プレミアム・アウトレット」発着便は適用除外。

